

2020年5月20日

## 留学報告書

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

体育教育センター

准教授・畑山知子

### 1. 留学期間

2018年9月25日～2020年3月14日

### 2. 受入機関

1) 立命館大学（日本国・京都府京都市）

2018年9月25日～2019年8月28日

2) California Institute of Integral Studies（以下 CIIS, San Francisco, CA, USA）

2019年8月29日～2020年3月14日

### 3. 主な活動

報告者は、対人援助職を対象としたボディワークプログラムの開発を目的として、上記機関に留学し、研究活動を行なった。

立命館大学では、産業社会学部 樋口耕一准教授の授業に参加させていただき、テキスト型データの計量的分析手法を学ぶとともに、これまでのプログラム実施において収集したデータの分析を進めた。一部の分析結果から2019年度看護学生を対象としたボディワークプログラムを改訂、実施し、学びに関するデータの収集を行った。現在、投稿準備を進めている。また、プログラム構築の上で重要な鍵となる体験学習やムーブメントを中心とした国内外の研究会やワークショップに参加した。ソマティック運動研究会（京都）をはじめとして、ダンス教育やソマティック教育者、研究者、実践者との意見交換を行い、プログラム構築の手がかりを得ることができた。

留学後半は、当初計画では、CIIS においてボディワークの理論や評価に関する研究を進めていく予定であったが、受け入れ教官である Don Hanlon Johnson 教授の体調不良により計画を変更し、文献調査を主としながら、CIIS の授業を受講し、実際に提供されているプログラムの体験と整理を行なった。発達過程の動きをベースとしたプログラムの展開や評価法から示唆を得た。加えて、同じ Bay Area において Bonnie Bainbridge Cohen 氏が開発した体験的解剖学とも称される Body-Mind Centering を学ぶ機会を得た。そのアプローチの基本は動くこと（movement）、触れること（touch）、声を出すこと（voice）、身体の経験を言語化すること（verbal dialogue）、そして心身の関係に取り組むことである。Touch は、科研費

の課題の一つでもあり、氏の **Touch** のワークショップに継続的に参加する機会を得、触れる際の意識や身体のある方を含む、触れることそのものへの理解を深めるとともに、実践者へのインタビューや研究会での議論からプログラムについての検討を重ねることができた。また、このことをもとに、日本国内のソマティック教育者とも連携を深め、研究会の立ち上げなど新たな研究の基盤を築くことができた。